

1. IPPNW とは

IPPNW (International Physicians for the Prevention of Nuclear War 核戦争防止国際医師会議) は、核兵器廃絶と核戦争防止を共通の目標として活動する医師組織の連盟である。特定のイデオロギーや政党の影響を受けないことを信条にし、核戦争の脅威に対して、医療専門家としての影響力を動員し、正しい知識の普及に努めている。現在、世界 64 カ国に数十万人の医師、医学生、医療従事者などの会員を擁している。

IPPNW 本部

住所：339 Pleasant Street, Third Floor, Malden, MA 02148, USA

電話：+1.617.440.1733 メール：ippnwbos@ippnw.org

ホームページ：ippnw.org ブログ：peaceandhealthblog.com

2. IPPNW の歩み

東西冷戦只中の 1970 年代末、米ソ間の核戦争の危機は一触即発の状態にあった。このような中、心臓病学者として長年の交流を持っていた、米国ハーバード大学公衆衛生学大学院のバーナード・ラウン教授とソ連心臓病研究センター元所長のエフゲニー・チャゾフ教授が呼びかけ、1980 年 12 月、米国とソ連の医師たちが集まって会議を開き、核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) が発足するに至った。

IPPNW は 1981 年以降、毎年各国で世界大会を開催し、「核戦争によってもたらされる破滅的な結果について権威ある知識を広め、人々の認識を高めることで人類に対し多大な貢献をした」実績が認められ、1985 年にノーベル平和賞を受賞した。第 9 回世界大会が広島・長崎で開催された 1989 年には IPPNW は約 20 万人の会員を擁するまでになっていた。

冷戦の終結後は、地域紛争など問題点の多様化もあり、世界を各地域 (アフリカ地域、ヨーロッパ地域、中南米地域、中東地域、北アジア地域、北アメリカ地域、ロシア・CIS 地域、南アジア地域、東南アジア・太平洋地域) に分け、隔年の世界大会と隔年の地域会議を行うようになる。

日本支部は、韓国、中国、北朝鮮、モンゴルとともに北アジア地域を形成し、他国支部を支援しながら世界大会や地域会議への参加を奨励し、自らは、被爆国の責務を果たすべく、「被爆の実態と放射線被爆の後障害」についての教育講演や被爆写真展を毎回行い、核兵器の非人道性をアピールし続けている。

3. IPPNW 各国支部

- アフリカ地域： コンゴ民主共和国、ケニア、ナイジェリア、南アフリカ、タンザニア、ウガンダ、ザンビア
- ヨーロッパ地域： オーストリア、ベルギー (AMPGN、MVPA)、チェコ共和国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、マケドニア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、セルビア、スペイン、スウェーデン、スイス、トルコ、英国
- ラテンアメリカ地域： アルゼンチン、ボリビア、コスタリカ、キューバ、エルサルバドル、ガテマラ、メキシコ、ニカラグア、ベネゼーラ
- 中東地域： エジプト、イラン、イスラエル、パレスチナ
- 北アジア地域： 日本、韓国、中国、北朝鮮、モンゴル
- 北アメリカ地域： カナダ、米国
- ロシア・CIS地域： ベラルーシ、グルジア、カザフスタン、キルギスタン、ロシア、ウクライナ
- 南アジア地域： バングラデッシュ、インド、ネパール、パキスタン、スリランカ
- 東南アジア・太平洋地域： オーストラリア、マレーシア、フィリピン

4. 第 20 回 IPPNW 世界大会開催について

2012 年（平成 24 年）8 月には、「第 20 回 IPPNW 世界大会」が広島の国際会議場で開催された。IPPNW 世界大会が広島で行われるのは、1989 年の第 9 回大会以来で、23 年ぶりのことであった。ふたたび、被爆地ヒロシマで IPPNW 活動の原点を再確認していただくとともに、広島の実験や核廃絶運動を若い世代へ継承していく大会を目指し、大会テーマは「ヒロシマから未来の世代へ (From Hiroshima to Future Generations)」とした。

開催にあたり、日本医師会から後援を受け、開会式には横倉 義武会長からご挨拶をいただいた。また、大会最終日には、石井 正三日本医師会常任理事が「東日本大震災の福島第一原発事故に対する JMAT (Japan Medical Association Team) の活動」と題した講演を行った。

5. 第 9 回 IPPNW 北アジア地域会議開催について

2016 年（平成 28 年）2 月 27 日（土）、28 日（日）には、広島県医師会館にて、「原爆被爆 70 年—核兵器廃絶へ新たなる決意—／—被爆者医療体験の継承と国際貢献—」をテーマに、「第 9 回核戦争防止国際医師会議（IPPNW）北アジア地域会議」を放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）および広島県と共催で執り行った。大阪、長崎、京都、山口、青森、福島、東京、岡山、愛知、石川、和歌山、岐阜、モンゴルなどから 2 日間で計 298 名（27 日：211 名、28 日：87 名）が参加した。閉会式では平松 恵一 IPPNW 日本支部長から広島宣言が発表された。

第 9 回 IPPNW 北アジア地域会議

広島宣言

2016 年 2 月 28 日

人類最初の原子爆弾が広島と長崎に投下されてから 70 年を経過しました。この節目にあたり、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）北アジア地域と放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）は、2016 年 2 月 27－28 日、広島県医師会館において、合同で国際シンポジウムを開催しました。

これまで原爆被爆者たちは、世界各地で被爆体験を証言するとともに、「核兵器なき世界」を訴え続けています。広島・長崎の医師たちは被爆者の医療に当たるとともに、被爆の健康影響に関する知識を世界に普及させるよう努めてきました。さらに原爆被爆者の医療経験と放射線の健康影響に関する研究成果を、世界の放射線被ばく者の医療に有効に活かす体制を構築し、国際協力の推進に役立ててきました。目覚ましい発展を遂げている放射線医学・医療も、長年にわたる被ばく者の医療・検診・調査などに基づいて、放射線の健康影響に関わる研究が行われてきた成果なくしては考えられません。

「核兵器による悲惨を被るのは私たちを最後にしてください」というのが、平均年齢 80 歳を超える被爆者の願いです。第二次世界大戦後、核兵器の使用が幾度も検討され、核ミサイル発射の誤情報や核兵器事故も繰り返されてきましたが、幸いにも人々の頭上での核爆発は避けられました。現在では核兵器保有国でさえも「核兵器の非人道性」に公然と反対はできなくなりました。

しかし世界には、なお、15,000 発を超える核兵器があります。核不拡散条約（NPT）第 6 条の「完全な核軍縮」の履行に向けて核兵器国が段階的核兵器削減を主張し続けている間に、実質的な核兵器保有国が増えました。包括的核実験禁止条約（CTBT）は

いまだ発効していませんし、兵器用核分裂物質生産禁止条約（FMCT）は条約制定のための交渉方法さえも合意されていません。北東アジア非核兵器地帯条約と中東非大量破壊兵器地帯条約は、交渉の場も設定されておらず、両地域の安全保障に関わる状況は厳しさを増しています。「核兵器禁止条約」が提案されているものの、核兵器保有国や核抑止に依存する国々を交渉のテーブルにつけることすら成功していません。

世界の国々はその安全保障政策において、一方に「核兵器保有国と核抑止依存国」、他方に「核兵器に依存しない国」と二分され、両者の間には深い溝ができています。その打開のために「多国間核軍縮交渉を前進させるための国連作業部会（OEWG）」が本年 1 月にジュネーブに設置され、8 月末までの 3 会期にわたって議論が行われます。第 1 会期は、この会議の直前でした。国連機関や政府のみならず、IPPNW を含む世界の多くの反核 NGO がこの会議に代表を送っています。私たちは、唯一の核兵器被爆国として、日本政府が核兵器のない世界の実現のために積極的に議論をリードしていただくよう要請します。

会議を終えるにあたり、私たちは被ばく者の医療に携わるとともに、「被ばく者の思い」を継承し、「核兵器の使用、核実験そして核事故が人々の健康と人生、社会、そして環境に及ぼす影響」の総合的解析に寄与し、それらの成果を世界に発信して必要な具体的対策を促し、核兵器廃絶のために努力を続ける決意であることを表明します。

IPPNW 日本支部
支部長 平松 恵一

6. 今後の会議・大会の予定について

2017 年（平成 29 年）9 月 4 日（月）～6 日（水）の会期で「第 22 回 IPPNW 世界大会」がイギリスのヨーク大学にて開催されることが決まっており、日本支部からも代表団を派遣の予定である。テーマは「国際保健コミュニティとして戦争、軍事主義、国際不安に立ち向かう（仮訳）」で、核兵器廃絶を含めた広い意味での平和実現について機論が行われる。

また、2018 年には「第 10 回 IPPNW 北アジア地域会議」がモンゴル支部の主催でモンゴル国内にて開催される予定となっている。モンゴル支部は 2005 年に設立、2007 年に第 6 回 IPPNW 北アジア地域会議主催、2015 年に再活性化された若い支部であり、北アジア地域を率いる日本支部には、モンゴル支部に対する多面的な支援が期待されている。

7. IPPNW 日本支部 (JPPNW) 活動報告

(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)

1. IPPNW 日本支部 (JPPNW) 理事会、広島県支部総会及び日本支部総会

平成 27 年 4 月 25 日 (土) に広島医師会館にて開催し、広島、長崎、大阪、青森、山口、岐阜から 43 名の参加を得た。

日本支部理事会では、「第 9 回 IPPNW 北アジア地域会議」を平成 28 年 2 月に広島県医師会館で開催することが承認された。また、現在、衰退している北アジア地域の各国支部をしっかりとした基盤を持った継続性のある組織にすべく、各国の医師会に働きかけるよう日本医師会に要請を行う提案があり、出席者の賛同を得た。

日本支部総会では平成 25 年度収支決算、26 年度活動報告および収支中間報告案、27 年度活動計画案および予算案が承認された。

2. IPPNW 広島県支部および日本支部(JPPNW)監事会

平成 27 年 4 月 1 日 (水) に平成 25 年度の会計監査、平成 27 年 7 月 23 日 (木) に平成 26 年度の会計監査を広島医師会館にて行った。広島県支部および日本支部収支決算について正確妥当であることが監事 4 名 (4 月 1 日時点では 1 名欠員) により認められた。

3. 平成 27 年度 JPPNW 移動理事会

平成 27 年 12 月 5 日 (土) に KKR ホテル大阪にて開催され、広島、長崎、京都、大阪、岐阜、三重から 35 名の参加を得た。平成 26 年度の収支決算、平成 27 年度の活動・収支 (いずれも中間)、「第 9 回 IPPNW 北アジア地域会議」準備進捗状況、各府県支部および医学生・若手医師部会の活動などについて報告された。

4. 第 9 回 IPPNW 北アジア地域会議開催準備

実行委員会および共催の放射線被曝者医療国際協力推進協議会 (HICARE) との合同運営委員会を組織し、プログラムなどの準備を進めた。

- ・平成 27 年 7 月 6 日 (月) : 実行委員会 (第 1 回) 合同運営委員会 (第 1 回)
- ・平成 27 年 9 月 2 日 (水) : 合同運営委員会 (第 2 回)
- ・平成 27 年 10 月 21 日 (水) : 合同運営委員会 (第 3 回)
- ・平成 27 年 12 月 2 日 (水) : 合同運営委員会 (第 4 回)

5. 第 9 回 IPPNW 北アジア地域会議

平成 28 年 2 月 27 日 (土)、28 日 (日)、広島県医師会館にて「原爆被爆 70 年 ―核兵器廃絶へ新たなる決意―/―被爆者医療体験の継承と国際貢献―」をテーマに、放射線被曝者医療国際協力推進協議会 (HICARE) および広島県と共催で開催した。

大阪、長崎、京都、山口、青森、福島、東京、岡山、愛知、石川、和歌山、岐阜、モンゴルなどから 2 日間で計 298 名（27 日：211 名、28 日：87 名）が参加した。閉会式では平松 恵一 IPPNW 日本支部長から広島宣言が発表された。

6. MedEx（医学生交換）プログラム

平成 27 年 6 月に広島大学医学部と学生交流に関する協定書を正式に交わした。

平成 27 年 7 月 21 日（火）から約 2 ヶ月半の間、ドイツ支部からパトリック・シュミット（ドイツ・ライプチヒ大学医学部 4 年）が来日した。平松恵一 IPPNW 日本支部長を表敬訪問後、広島市立大学の平和コース、広島大学病院（呼吸器内科、放射線診断科）、広島赤十字・原爆病院、大久野島などで実習や平和学習を行い、日本の医学生らと交流した。

平成 27 年 8 月 12 日（水）から 2 週間余りの間、日本支部から草本 慎一（広島大学医学部 3 年）がドイツのギーセン大学などで実習や平和学習を行った。

平成 28 年 2 月 28 日（日）から約 1 ヶ月の間、日本支部から廣瀬 佳和（広島大学医学部 4 年）がドイツのライプチヒ大学などで実習や平和学習を行った。

7. モンゴル支部の再活性化

平成 27 年 7 月 12 日（日）、13 日（月）に朝長 万左男 IPPNW 副会長（北アジア地域代表）と茅野 龍馬日本支部理事がモンゴルを訪問し、デルゲルセツグ医師、エンクサイハン元国連大使、若手医師 2 名などと会談を行い、モンゴル支部の再活性化を支援した。

8. IPPNW 本部理事会への出席

平成 27 年 11 月 14 日（土）、15 日（日）にロンドンで開催された IPPNW 本部理事会に朝長 万左男 IPPNW 副会長（北アジア地域代表）が出席した。

9. 第 61 回パグウォッシュ会議への協力と参加

平成 27 年 11 月 1 日（日）～5 日（木）に長崎で開催された「第 61 回パグウォッシュ会議」では、長崎の調 漸、朝長万左男両会員と広島の片岡勝子会員が運営の中心メンバーとして活動した。

10. その他

・講演会

①平成 27 年 5 月 20 日（水）に広島大学医学部講義室において、公衆衛生学の「専門教養・国際協力論」の講義の一つとして、片岡 勝子 JPPNW 事務総長が「原爆放射線の健康影響、IPPNW の歴史と活動」と題する講演を行った。また、茅野 龍馬理事が IPPNW 日本支部学生・若手医師部会および南・北アジア学生・若手医師部会について紹介した。

②平成 27 年 7 月 29 日（水）広島医師会館に国際医学生連盟（IFMSA）サマーキャンプ参加者が訪問し、片岡 勝子事務総長が原爆放射線の健康影響に関する講演を行った。

③平成 27 年 11 月開催の「世界核被害者フォーラム」（広島）全体会議講演として朝長 万左男 IPPNW 副会長（北アジア地域代表）が原爆被災と放射線の健康影響に関する講演を行った。

- ・メディムジカ・アンサンブル（広島県支部）

平成 27 年 9 月 20 日（日）広島市西区民センターで行われたメディムジカ・アンサンブルコンサートにて IPPNW 活動支援への募金活動を行った。

- ・平成 26 年度 JPPNW 年間報告書の編纂・配布

8. IPPNW 日本支部

連絡先	代表支部長	会員数
〒732-0057 広島県広島市東区二葉の里 3-2-3 広島県医師会館内 TEL：082-568-1511/FAX：082-568-2112 メール： ippnw-japan@hiroshima.med.or.jp	横倉 義武	2,584 (H29.3.31 現在)